秋の交通安全街頭キャンペーン
## 交通安全お祓い関所

9月25日、秋の交通安全街頭キャンペーン「お祓い関所」（高千穂地区交通安全協会三田井支部甲斐隆弘支部長）が武道館交差点そばの国道で行われました。この取組みは10年以上前から行われており、当日は神様に扮した高千穂署の署員が交通安全を祈願しました。

甲斐支部長は「これから夜神楽も始まり飲酒の機会も増えるため、交通安全の意識を高めてもらいたい」と述べていました。



熊本地震の復興を願い
## 岩戸音楽フェス開催

9月26日、旧岩戸中学校体育館にて岩戸音楽フェス（岩戸音楽フェス実行委員会主催）が行われました。熊本地震の復興支援と地域の人たちに音楽を楽しんでもらおうと今年初めて開催。当日はバンドを中心とした12団体が出演し、くじ引きや飲食などの出店もあり賑わっていました。

田部幸博実行委員長は「多くの方々に支えられて、無事開催することができた。来年も開催したい」と述べていました。



高千穂の未来に向けた
## ゼロカーボンシティ宣言、森の国・木の街づくり宣言

10月3日、町武道館において、「高千穂町ゼロカーボンシティ宣言」、「森の国・木の街づくり宣言」が行われました。地球温暖化に伴う気候変動に対し、2050年までに二酸化炭素排出量の実質ゼロが国際的な目標となっています。町長は宣言で「先人より受け継がれてきた豊かな地域資源を将来へ引継ぎ、安心して暮らせる地域社会の実現を、地域行政一丸となって目指していきたい」と述べていました。



持続可能な農業を未来へ
## 高千穂町オーガニックビレッジ宣言

10月4日、町自然休養村管理センターにて高千穂町オーガニックビレッジ宣言が行われました。宣言では町長が、豊かな自然環境を守りながら、将来を担う子ども達への持続可能な農業と地域環境を未来へ引き継ぎ、町民が健康で心豊かに暮らし続けることのできる地域を目指すことを目的として宣言しました。

また当日は、オーガニック給食に関する映画上映と、マルシェも同時開催されました。




安心安全な学校生活を
## (株)ケーブルメディアワイワイ防犯カメラ贈呈

(株)ケーブルメディアワイワイ開局35周年記念事業として、町内の小学校に防犯カメラが寄贈され、9月29日に高千穂小学校で贈呈式が行われました。

高野剛一代表取締役専務はあいさつで「開局35年の歩みの中で、高千穂町の皆様との縁をいただいた。将来を担う児童が、安心安全な生活を送れるよう活用してもらいたい」と述べました。

贈呈のあと、児童からお礼の言葉と花束が贈られました。



故郷を思い出して
## 徳別当の棚田で稲刈りイベント開催

10月3日、山附徳別当地区の棚田にて、稲刈り体験が行われました。6月の田植えイベントと同様に、山附地区に所縁のある家族が県内外から参加し、丁寧に手刈りによる稲刈りを行ったあと、コンバインの操作体験も行われました。

福岡市から初めて参加した塚田朔太郎（さくたろう）さん、鈴乃（すずの）さん兄妹は「靴下が汚れて大変だったけど楽しかった。来年は田植えから参加したい」と話していました。



集落の活性化を支援
## 山村リフレッシュ支援事業

10月5日、一般社団法人宮崎県治山林道協会（佐藤貢会長）が実施する「山村集落リフレッシュ支援事業」に、中西公民館（吉水寿一館長）、日向公民館（矢野伸幸館長）が選ばれ、交付金の贈呈が行われました。

山村地域の有する県土の保全や自然環境の保全等の役割を果たす集落の活性化への取り組みに対して支援され、中西公民館ではエアコンの設置、日向公民館ではトイレの整備を行いました。



郷土を愛し豊かな心を育む
## みどりの文庫を寄贈

10月5日、一般社団法人宮崎県治山林道協会（佐藤貢会長）から、押方小学校（田﨑智章晃校長）に「みどりの文庫」が寄贈されました。

県内の小中学校を対象に、森林・環境に関する図書等を贈呈することで、児童・生徒が読書を通じて自然の大切さを認識し、郷土を愛する豊かな心を育んでもらおうと毎年実施。押方小学校では、自然の大切さを学べる書籍の購入などを予定しています。

